

西区農業委員会だより

第54号

令和3年
3月1日

新潟市西区農業委員会：〒950-2097 新潟市西区寺尾東3丁目14番41号 TEL 025-264-7811



春作業を前に想う

3月を迎え、少しずつ春の訪れを感じる季節になりました。

日頃より当委員会の業務に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年は2年ぶりの大雪に見舞われる大変な年明けになりました。新潟市内でもパイプハウスの倒壊やその中で栽培していた農作物などに多くの被害が発生し、改めて自然の驚異を感じました。

農業経営は常に自然災害との闘いです。昨年6・7月の長雨では「くろさき茶豆」をはじめとする枝豆の生育に影響が出ましたし、8・9月の猛暑では米の生育に気をもみました。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症は、国の緊急事態宣言や新潟県の警報が発令されるなど、いまだ収束が見えておりません。1日も早い社会経済活動の再開を望みますが、農業経営もこのような難局を克服する臨機応変な対応が求められているように感じます。

さて当委員会は今年、任期3年目の最終年を迎えます。

農地中間管理事業等改正法により、農業委員会の活動に「農地所有者等の意向把握」と「集落での話し合い活動への参加」が明確化され、当委員会も「人・農地プラン」の実質化に取り組んでまいりました。今後は農業委員会改革の主眼である「農地利用の最適化」への取り組みと着実な成果の積み上げが各方面から期待されています。

いくつもの試練がありますが、広く農業者の立場を代表する当委員会といたしましては、皆さまと手を取り合って、気持ちを新たに、前を向いて西区農業の振興・発展に取り組んでまいります。

皆さまのご健勝と今年の豊作をご祈念申し上げます。

西区農業委員会

会長 本間 雄一



新潟市長に「意見書」を提出

2月2日に市内6つの農業委員会の会長が「農地等利用最適化推進施策等に関する意見書」を中原市長に提出しました。主な内容は、担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進など6項目についてです。その後に農業施策などについて、二神農林水産部長を交えて意見交換を行いました。意見書の全文は市ホームページをご覧ください。

スマートフォンはこちらから



左から、虎澤会長（中央）、本間会長（西区）、首藤会長（北区）、中原市長、小倉会長（秋葉区）、間宮会長（西蒲区）、原会長（南区）

新潟県女性農業委員等研修会に参加して

農業委員 江端 美春

新潟県女性農業委員等研修会が、昨年12月1・2日の2日間、万代市民会館（中央区）で開催されました。

1日目は、新潟中央青果（株）の小山恒光取締役主管より「市場流通の変化と今、消費者が求める野菜と果物」と題して、消費者が軽量で手頃感のあるものに流れていて、地物へのこだわり意識も高まっていると説明がありました。



農業者年金制度を説明する主催者職員

2日目は、（一社）全国農業会議所の稲垣照哉事務局長より「今使われている農地を使えるうちに、使える人へ繋いでいくことで遊休農地発生防止に繋がる」と農地利用の最適化について講演していただきました。

コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年より参加人数を縮小しての研修会でしたが、地元での開催であり、主催者として調整・運営に携わることができ有意義な研修となりました。

法人を農業後継者に・(株)アサツマファーム

農業法人として3年が経過した(株)アサツマファームさん取材しました。この日は冬場の主力野菜、かぶの出荷作業の真最中。2人1組での作業に「うちは働き方改革を実践している。楽になるよう工夫し座つての作業。それと作業分担でみんなの動きがよく見える。」と代表の朝妻幸雄さん(64)はいう。

法人設立のきっかけは。

「今後の農業を考えたとき、税制面や農業施策の利用に有利だからと、先輩の指導農業士からアドバイスを受け迷わず実行しました。」

今後の経営についてお聞かせください。

「農地の活用は、農業委員会から相談に入ってもらい耕作されていない農地も積極的に借り受けている。農産物の販売はJAの組織力をフル活用して規模拡大を目指したい。」

法人設立で後継者は育っていますか。

「長男が役員として経営のかじ取りをまかっています。私は法人設立時に親から相続した農地を法人に現物出資しました。今はアサツマファームが農地の持ち主。私にとって会社そのものが後継者だと思っています。」

農地利用の最適化を目指す西区農業委員会の活動に対して力強い言葉をいただき、農地と農家をつなぐことの大切さとその責任を再認識しました。アサツマファームの皆さんありがとうございました。



自慢のかぶを手にする朝妻代表

会社概要

(株)アサツマファーム (代)朝妻幸雄

- ・設立 平成29年8月
 - ・令和2年決算売上高 7,100万円
 - ・役員5名(家族を含む)
 - ・通年雇用1名 農繁期パート4名
 - ・業務内容 だいこん、ねぎ、かぶ、すいか、メロンなど畑作野菜果物を栽培
販売出荷先は地元JA
 - ・経営農地面積 5.8ha(法人)
0.5ha(個人)
- 水稲は経営転換により全面委託している。



出荷作業中の従業員の皆さん

農産物の紹介

「西区の旬・いもジェンヌ」

「いもジェンヌ」は、西区の海岸砂丘地帯で生産される甘さとしっとり感が特徴のさつまいも「紅はるか」です。

紅はるかの全国展開とほぼ同時に、耕作放棄地発生防止や葉たばこに代わる作物として、西区の生産者もこの新品種を導入しました。新潟砂丘さつまいも「いもジェンヌ」としてブランド名を決定しJ Aが商標登録を行いました。

収穫時期は9月下旬から10月下旬まで。収穫後にいったん貯蔵し、登熟させたのち出荷され春先まで楽しむことができます。

おすすめは焼き芋です。うまみ、食感のよさを一番感じられます。

今回はIHクッキングヒーターでカンタン焼き芋をご紹介します。

1



2



3



4



グリルで280度28分焼く。30分以上そのまま。蜜が皮の周りに集まります。あとは切って食べるだけです。



(今月の表紙)

黒埼地区木場の豊田裕志さんが切り花の管理作業をしていました。

チューリップ栽培のポイントはこまめな温度管理。クリスマスドリーム(一重・ピンク)やアバンギャルド(八重・クリーム)を育てながら、これから本格的な花シーズンに向かいます。

(黒埼地区にて)